



第13号

偕楽園公園を愛する市民の会

事務所 千310-0053 水戸市吉沢町2-22 Tel・Fax 029-247-0438 ホームページ http://www.kairaku-en.jp/

新たな活動へ

平成二十七年通常総会

平成二十七年四月二十二日、茨城県水戸生涯学習センター大講座室で会員八十名が出席して通常総会を開催しました。



湊会長はいさつで、一年間の活動をふり返り、「新しい会活動の姿が見え始めました。偕楽園公園を素晴らしい魅力あふれる都市公園にするために引き続き楽しく活動していきましょう」と呼びかけました（前号で紹介）。

高橋靖市長は選挙中の多忙な時期にもかかわらず出席され、ご挨拶をいただきました。市長は、最初に会の活動に感謝の言葉を述べられたのち、「偕楽園なんでも百科」について高い評価を寄せられました。



水戸市には、平成二十三年・二十五年にわたって「偕楽園なんでも百科」を「一三〇〇冊以上ご寄贈頂きまして、学校のほか各方面に配布して活用させていただいています。

この本は簡単に言って一番わかりやすい表現になっている。難しい色々な本を読むよりもあれで知識を得て説明すると「ああ」と感動される。一冊手元に持っているだけで多くの方に尊敬されます。子どもたちから高齢者に至るまで活用させていただきます。皆さまで偕楽園を愛していただくという機運醸成に役立たせていただきます。市長は、さらに「偕楽園公園には、いろんな楽しみ方、いろんな遊び方、いろんな

活用の仕方、いろんな魅力発信の仕方があると思います。県、市、そして皆様方にご提言いただきながら三者共同で知恵・アイデアを磨いてこれからの地方創生の中で生かしていきたい。今後とも活躍していただきたい。」と本会の活動に期待を述べられました。



次いで湊会長を議長に議事に入りました。今年度は、各委員長が事業報告、会計報告、今年度の事業計画、予算案のそれぞれを報告、提案する形で議事が進められました。各報告から、委員会ごとの一年間の新しい会活動の姿が見え始めました。提案した議題は、原案通り承認されました。

最後に湊会長が「委員会活動が着実に進んでいることがわかりました。まだ委員会に参加していない人はぜひご参加ください。」と呼びかけて閉会となりました。

弘道館と偕楽園の歴史と復興

総会記念講演会

総会後、弘道館学芸員小坪のり子氏を講師に迎えて記念講演会が開かれました。小坪氏は水戸市の出身で平成十七年から弘道館事務所に学芸担当の嘱託職員として勤務されています。

小坪氏は講演資料（平成二十七年度総会資料「綴込」）の順に、写真や資料をスクリーンに映して話されました。

内容は、はじめに、水戸藩の成立と徳川斉昭について、弘道館・偕楽園の歴史と魅力、東日本大震災による

偕楽園・弘道館の被災と復興のあゆみ、おわりに
ここでは講演の中心である弘道館の被災と復興についてまとめます。



小坪のり子氏

弘道館の建造物は、創建時からの建造物など国有的部分と、空襲で焼失したものなどを県が復元した県有の部分があり、震災復旧工事は国有一部分（正庁・至善堂・正門・学生警鐘・弘道館記念など）は国、県有部分は県が担当しました。

正庁・至善堂の瓦は、傷んだものを全部検査して葺き替えた結果、現在は創建当初の瓦が六％、昭和の大修理の瓦が二八％、今回の復旧による瓦が六六％となりました。創建当初の丸印に安という押印瓦の製造元が青柳町にあったことが分かりました。



壁の修復

土壁の修復は、破損の状況に応じて行われました。室内の壁は八枚重ねの和紙で仕上げられてあり、創建時と同じ工法で復旧しています。

今回の工事で天井裏の細長い材木に書かれた墨書が発見されましたが、「吉田大工町」という墨書から現在の元台町に居住していた大工が弘道館の建造に携わったことが確認されました。

また、藩主が滞在した正庁・至善堂の二部屋が二重床の構造になっていることが分かりました。これは床下からの襲撃を防いだり、防寒・防塵のためと推測されています。最も大変だったのは「弘道館記念碑」の修復です。

碑は、昭和二十年（一九四五）の空襲で八卦堂が全焼した際にひどく損傷し、震災では損傷部分から下が大きく崩落してしまいました。

修復は、曳家という技術で八卦堂を二m持ち上げ、碑身を運び出して行われました。

碑身は、文字のある破片を五cmに板状にスライスし、パズルのように位置を確定し、震災前の九割近く復元できました。石碑の修復では、碑身と台石が鉄製のダボで接続され、ダボには秋田県産の天然アスファルトが塗られていたことが発見されました。



弘道館記念碑

最後に、江戸時代の教育、偕楽園・弘道館で大切にされてきた「仁」の教えについてご紹介いたします。「仁」には、思いやりや人と人とのつながりという意味があります。今回の震災をとおして、この「仁」が現代の私たちの心にもしっかりと受け継がれていることを感じました。日本人は、震災のような非常事態においても他人を思いやり、秩序を守ることができず。このよ

うな日本人の姿は、外国の人々には驚くべきこととして高く評価されています。目には見えない心の遺産として受け継がれた「仁」の心を、誇りに思っていただけだと思います。

活動報告

花壇づくり

環境委員会

魅力向上委員会と共催で五月に「偕楽園公園の魅力発見ウォーキング」を実施しました。

「偕楽園公園花づくりパートナー」では猩猩梅林の一面に花壇を借りて花を植えています。昨春秋に植えたアブラナは消滅しましたが、今年春に種をまいたキバナコスモスは見事に開花して見られました。



花壇

後期はキバナコスモスの種取と抜根を行ない、アブラナの種子を播きます。詳細はホームページをご覧ください。

活動報告

偕楽園公園魅力再発見ウォーク

魅力向上委員会

平成二十七年五月二十三日(土)、茨城県職員と水戸市環境保全会議の西原氏の案内で桜川の右岸堤防上と左岸の遊歩道周辺を歩き、観察しました。参加者は会員一八名、茨城県職員三名でした。

魅力向上委員会副委員長 浅川 きよ



遊水地堤防での説明

初夏のような気候でしたが、湿度は低く、さわやかな空気の中を桜川緑地の湿地約5kmを二二名で探索いたしました。

好文橋駐車場から上流の川添いの護岸上の道を背丈ほどに伸びている雑草を掻き分け歩むと、左側に広大な湿地が広がります。ここで地質学専門の西原様より湿地の成り立ちと「地表に湧水となり湧き出てくるこの水は七〇年の長い年月を要してこの湿地や桜川に流れこんでいる」という興味深い話と、桜川の変遷と水の流れの現状を知ることが出来ました。



散策後、偕楽園公園の敷地の一部であるこの湿原について、「今後私たち市民がどのようにに活用できるか」を話し合いました。

「植物主体の自然公園にする」、「子供たちが水辺で思い切り遊べる場所を作る」、「回遊性のサイクリングロードやマラソンロードを作れるといい」、「ドックランの広場」などの意見がある一方、「今のままでも散策していいベンチと水飲み場があると何回でも歩きたい場所ですわね」などの意見が交わされました。

偕楽園公園の今と昔：水辺、湧水、そして水都

魅力向上委員会

平成二十七年七月十四日から二十六日に偕楽園公園センターで、偕楽園公園で活動

する五団体に呼びかけてパネル展示とワークショップを開催しました。

本会は偕楽園公園で未整備の桜川緑地の現状を示すパネルを展示しました。昭和四十五年頃の桜川緑地の姿を示す写真(茨城県土木部から借用)も展示しました。



桜川緑地の現状

「歴史アドバイザー水戸」は設立十五周年を記念して、活動のあゆみを示す写真のパネルを展示しました。「水戸市環境保全会議」は笠原水道の敷設と使用された岩樋の跡地の地図など。「茨城生物の会」は「逆川を愛する会」と共同で「こどもエコクラブ」のホタル再生運動の取り組み活動を紹介しました。



地層の観察

冊子「水戸の湧水」からの解説パネルを展示しました。「千波湖周辺の公園と自然を愛する市民の会」は活動の紹介をそれぞれ展示しました。

展示の入場者は二六二名ですが、昨年よりも統一性があり、流れのわかる展示になったとの印象が寄せられました。参加団体が次のように多彩なイベントを企画しました。

イベント クイズスタンプラリー(十八日(土) 歴史アドバイザー水戸・本会)、親子の自然観察会(十九日(日) 茨城生物の会、西の谷魅力発見ウォーク(十日(祝) 本会)、作って遊ぼう!(二十四日(金) 水戸市環境保全会議)、千波湖環境学習会(二十五日(土) 茨城生物の会・水戸市)、講演会「笠原水道のお話し」(二十六日(日) 水戸市環境保全会議)、「茶の湯を楽しむ」(十九日、二十日、二十五日、二十六日抽読会)



参加者が少ないイベントもありましたが、皆さんが「偕楽園公園の新しい魅力に触れられた」という感想を寄せられました。また、「茶の湯を楽しむ」

イベントは、今年から会場を見晴亭に移したので多数の来園者が立ち寄られ、行事の少ない夏に良い企画だと喜ばれました。

弘道館 親子の論語塾

論語委員会

論語塾七期目の前期は、毎月第一土曜日に弘道館で開催しました。カラーチラシを使って湊会長や役員が知り合いに勧誘したこと、安岡先生の講演会(六月二十一日「高校生のための人生を考える」、主催：茨城県退職高等学校校長会)の出席者に宣伝させていただいたことなどもあって、大人の受講生が増えて受講者数が安定しています。また、常陽銀行から支援を受けることが決まり財政の改善も図っています。



今年八月一日が弘道館開館記念日に当たるので、無料体験見学会を併設しました。この行事は弘道館の「日本遺産認定記念パネル展&学び体験イベント」の一つに採用され、宣伝していただき、観覧料を無料にさせていただきました。

当日は通常受講生三〇名に体験見学者二二名が受講しほぼ部屋いっぱいになりました。猛暑で風もなく、エアコンのない室内は厳しい暑さとなりました。保護者は扇子やうちわであおぎ、汗をぬぐうなど懸命に努力しました。が、子供たちの多くは意外と平気で、前に出ての号令や一人ずつの素読にいつものように取り組んでいました。



元気な子ども 暑い風もなく、エアコンのない室内は厳しい暑さとなりました。保護者は扇子やうちわであおぎ、汗をぬぐうなど懸命に努力しました。

今年度後期の活動計画

論語委員会

「弘道館 親子の論語塾」第七期 十月から始まる後期のうち十一月〜三月は茨城県水戸生涯学習センターで開く予定です。

でしたが、十一月も弘道館で開講します。なお一月二日は休講とします。

- ・ 期日 毎月第一土曜日(十月三日・十一月七日・十二月五日・二月六日・三月五日)
- ・ 会場 弘道館至善堂(十一月)
- ・ 茨城県水戸生涯学習センター講座室
- ・ 県三の丸庁舎三階(十二月〜三月)

詳細はホームページをご覧ください。

交流委員会

第十回大名庭園サミット金沢大会

金沢大会。今年例年より多い三二名の申し込みがありました。

・ 大会テーマ 「大名庭園の価値を伝えよう」
・ 期日 平成二十七年十一月十九〜二十日
・ 場所 金沢市兼六園
「金沢の歴史」事前学習会
研修委員会と共同で開きます。サミットに参加されない方のご参加も歓迎します。
日時 平成二十七年十一月七日(土) 午後一時三〇分〜午後三時
場所 水戸市国際交流センター三階(備前町) 講師 久野勝弥氏(本会顧問)

研修委員会

『偕楽園なんでも百科』の改訂

来年二月の刊行を目指して編集作業を開始しました。震災の被害と復興への取り組みを盛り込むほか、いくつかの改訂を行います。また、売店などで販売できるようにします。

ホームページの更新

行事の予定や結果などを迅速に会員に届けるよう頻りに更新したいと思います。

ベストパートナーバンク
常陽銀行